

# 目次

▶は動画収録項目

<b>第1章 検査前の準備</b>		1
1.1 2～5%赤血球浮遊液の調製法	井手 大輔	1
▶2～5%赤血球浮遊液の調製手順		2
1.2 赤血球の洗浄法	日高 陽子	3
▶抗グロブリン試験の洗浄手順（クームス洗浄）		4
1.3 凝集反応の観察		5
1.3.1 試験管法	日高 陽子	5
▶凝集反応の判定手順（試験管法）		6
1.3.2 カラム凝集法	日高 陽子	7
1.3.3 マイクロプレート法	村井 良精	10
1.3.4 それぞれの検査の特徴	村井 良精	12
1.4 検査の準備	藤井 明美	13
<b>第2章 ABO・RhD 血液型検査</b>		20
▶試験管法による ABO・RhD 血液型検査の手順		20
2.1 試験管法による ABO 血液型検査	本田 昌樹	20
2.2 試験管法による RhD 血液型検査	本田 昌樹	24
2.3 スライド法	北崎 英晃	27
▶スライド法の手順		28
2.4 試験管法とスライド法の特徴	北崎 英晃	30
▶試験管法での部分凝集（mf）		31
▶スライド法での部分凝集1		31
▶スライド法での部分凝集2		31
<b>第3章 不規則抗体検査</b>		32
3.1 不規則抗体スクリーニング	板垣 浩行	32
▶不規則抗体スクリーニングの手順		33
3.2 抗体同定検査		35
3.2.1 生理食塩液法・間接抗グロブリン試験による 抗体同定検査	板垣 浩行	35
3.2.2 酵素法	板垣 浩行	40
3.2.3 消去法	北崎 英晃	42
▶消去法の手順		43

3.2.4	確率計算による統計学的評価	森山 昌彦	44
3.2.5	抗原検査	森山 昌彦	47
<b>第4章</b>	<b>交差適合試験</b>	村井 良精	48
4.1	生理食塩液法主試験手順		48
	▶試験管法による交差適合試験の手順		48
4.2	間接抗グロブリン試験主試験手順		50
	▶試験管法による交差適合試験の手順		50
<b>第5章</b>	<b>直接抗グロブリン試験</b>	森山 昌彦	53
	▶直接抗グロブリン試験の手順		54
<b>第6章</b>	<b>間接抗グロブリン試験</b>	森山 昌彦	57
<b>第7章</b>	<b>亜型検査</b>	伊藤 正一	60
7.1	亜型検査の進め方		60
7.2	吸着解離試験		65
	▶抗Aまたは抗Bによる吸着解離試験の手順		66
7.3	糖転移酵素活性測定		68
7.4	唾液による凝集抑制試験		70
7.5	抗A, 抗Bによる被凝集価測定		73
7.6	フローサイトメトリーによるAB抗原解析		75
7.7	遺伝子検査による亜型の推定		77
<b>第8章</b>	<b>抗体価測定</b>	大前 和人	80
8.1	抗体価測定		80
	▶抗体価測定の手順		81
8.2	使用する赤血球の選択		84
<b>第9章</b>	<b>予期せぬ反応への対処</b>		85
9.1	輸血検査の予期せぬ反応への対処	天本 貴広	85
9.1.1	赤血球側に問題がある場合		86
	▶酸解離試験の手順		90
9.1.2	血漿側に問題がある場合		91
9.2	自己抗体吸着法	大谷 敦子	96
9.2.1	PEG 吸着		97

●PEG 吸着の手順		97
9.2.2 ZZAP 処理法		98
9.3 分子標的治療薬の対処法	井手 大輔	100
<b>第10章 精度管理</b>	福吉 葉子	103
10.1 機器・器材類の精度管理		105
10.2 環境整備		111
10.3 輸血検査		111
10.4 臨床検査室の第三者認定		114
10.5 継続的改善		114
<b>第11章 症例から考える</b>		116
11.1 ABO・RhD 血液型の予期せぬ反応		116
11.1.1 亜型	大前 和人	116
11.1.2 温式自己抗体	富山 隆介	118
11.1.3 冷式抗体	富山 隆介	120
11.1.4 連鎖形成	大前 和人	123
11.2 RhD 血液型判定困難事例 (weak D, partial D)	大谷 敦子	124
11.2.1 D 陰性確認試験		126
11.2.2 輸血への対応		128
11.3 冷式自己抗体保有症例	富山 隆介	128
11.4 IgG 型温式自己抗体保有症例	富山 隆介	132
11.5 抗原表の特異性と反応パターンが一致しないとき、 考えられることは何か？	松浦 秀哲	136
11.6 母児間血液型不適合妊娠症例	浅野 尚美	141
11.6.1 新生児・乳児の ABO 血液型検査		142
11.6.2 抗体価・児の不規則抗体検査・直接抗グロブリン試験		144
11.7 高頻度抗原に対する抗体保有症例	伊藤 正一	147
11.8 交差適合試験陽性症例	井手 大輔	151
11.9 汎血球凝集反応	井手 大輔	152
11.10 抗体による溶血反応を疑った場合に すべきことは何か？	松浦 秀哲	154
11.11 溶血性輸血反応	山田麻里江	158
11.11.1 急性溶血性輸血反応		158
11.11.2 遅発性溶血性輸血反応		161